

第1回 職域生協部会を開催しました！

10月12日（水曜日）2022年度 第1回職域生協部会をZoomで開催し、職域生協、日生協職域生協事務局から9名の参加がありました。

鶴岡部会長より、今回の職域生協部会はコロナの影響で東大生協の視察見学を再延期とし、各生協の事業報告をもとにコロナ禍での事業継続状況や工夫していることなどについて交流をし、今後職域生協間で連携した取り組みができる様にしていきたいとあいさつがありました。

2022年度上半期事業と下期の課題について、各生協からの報告と交流

○ 千葉県学校生協

物価高の影響で諸経費が増大し供給事業での利益が出ない。これまで単独でしていた配送業務を群馬・栃木と合同委託することにした。下期は、事業ごとの収支の把握と経営資源の効果的投入に努める。

○ 千葉大学生協・千葉商科大学生協

上期千葉商科大学の事業は順調だった。千葉大学は学内人口が回復し、食堂は6~8割位回復しているが購買での食品が伸び悩んでいる。レジ等のシステム入替えが始まりiPadの「ユビレジ」に切り替わる。共済の関係で職域生協との連携ができればと思う。

○ 東邦大学消費生協

今年度は新入生向けのパソコンの利用伸長が伸び悩んだ。食堂事業においては週2~3回利用しても飽きないメニュー提案、フェア企画などで黒字経営にしていける。2023年度新入生に向けて大学生協らしさのアピールをする。

○ 千葉県庁生協

県庁内のセブンイレブン店は供給高も好調。食堂事業はコロナ禍で利用者が減少しているのでお弁当の販売を強化している。自粛していた県庁内での催事や業者の出展販売を再開した。

※ 共済との関係での連携について

- ・ 学生の時に加入していた学生総合共済が新社会人コース（好条件で掛金が安い）として継続が出来るので新社会人（県庁職員や教職員）になる人に加入促進と県庁生協や学校生協のアピールをする

- ・ 県庁生協、学校生協はコープ共済連の扱いを検討

○ 日本生協連職域生協事務局からの報告

日本生協連職域生協事務局の活動、経営内容把握の取り組み、事業部門別調査の取り組みなどについて報告がありました。

○ 県連事務局からの報告

ウクライナの支援活動『お茶しませんかPJ』の8月・9月（バス見学）開催報告と9都県市合同防災訓練の参加、子どもたちに平和な未来をの開催報告と11月に開催する成年年齢引き下げの学習会、12月に開催する貧困の学習会の案内がありました。

